

Title	Conservation of Salt Townscape in Jordan Based on Appraisal of Architectural Feature Generating Local Character
Author(s)	Rafif, Mohammad Ja'far Ibrahim Alzu'bi
Citation	大阪大学, 2010, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/58331
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について〈/a〉をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	ラフィーフ アルゾウビ Rafif Alzu'bi
博士の専攻分野の名称	博士(工学)
学位記番号	第 24266号
学位授与年月日	平成22年12月31日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 工学研究科地球総合工学専攻
学位論文名	Conservation of Salt Townscape in Jordan Based on Appraisal of Architectural Feature Generating Local Character (地域特性を構成する建築的特性の評価にもとづくヨルダン・サルト都市景観の保全に関する研究)
論文審査委員	(主査) 准教授 小浦 久子 (副査) 教授 阿部 浩和 教授 奥 俊信 教授 澤木 昌典

論文内容の要旨

本研究は、ヨルダン・サルト市において、都市景観を特徴づけている黄色石造の建築物について、景観構成要素としての価値に着目し、サルトにおける都市景観の地域性を保全するための計画論を考察提示するものである。

第1章では、サルトの位置・地理的特性および市街地形成の歴史的分析により、歴史的環境と認識される地域を特定するとともに、歴史的環境の空間的構成の特徴について、地理的条件による道路ネットワークの特性および社会的条件による土地利用のまとまりから考察している。また、こうした基礎的条件にもとづき、調査対象地域のゾーニングを行った。

第2章では、伝統的な建て方の建築物の変容実態について調査分析している。サルトの起源は紀元前にさかのぼるが、現在のサルトの歴史的環境は19世紀終わりから20世紀初頭に形成されており、その後の社会・経済的変化の過程で変化している。モータリゼーションの進展が豊かな家系の郊外移転を促進した。現在の都市景観を構成する建築物の変化の背景についてヒアリング調査を行い、居住者の生活ニーズの変容に応じた増改築が繰り返されてきた実態を明らかにした。

第3章では、歴史的環境と位置づけた調査対象地域にある建築物の実態調査を行い、その調査結果にもとづき、景観を特徴づけている黄色石造(石灰岩の一種)建築物の現状を評価している。調査対象地域内の建築物のうち、49.7%(422棟)は黄色石造建築物であるが、その75%以上では景観を特徴づける色や素材感に変更を生じるような改修が見られた。その中で当初の建築様式と用途を維持している建物が多く残る地区に対する保全プログラムの必要性を提案するとともに、住宅用途の建物で基準のないことから個別に変容する状況に対して何らかの管理手法の必要性を指摘した。

第4章では、これまでの行政機関の取り組みについて文献・ヒアリングによる調査を行った。公的機関の報告書の分析により建築物の歴史的価値の評価軸を検証したところ、特定の大規模な歴史遺産型の建築物を評価し、そうした建築物を重点的に修復保全することが、行政機関の主な取り組みであることが確認された。あわせて周辺道路や眺望点の整備による観光振興が意図されており、地域の生活環境の歴史性を創出している一般的な黄色砂岩建築物への関心が低いことがわかった。

第5章では、都市景観の歴史性および地域性の保全には、一般的な黄色石造建築物の保全が重要という観点から、行政機関が評価する建築物の評価指標を参考に一般的建築物の評価すべき建築的

特性を抽出するとともに、景観を特徴づける外観保全の基本的考え方を検討した。

第6章では、黄色石造建築物の実態調査にもとづき、景観構成要素としての評価の考え方を検討し、そこから景観保全の観点から地域を特徴づける建築物の変化を管理する保全プログラムについてまとめている。実証的検討にもとづく計画手法を検討した。

本研究では、これまでの歴史遺産型の建物保存を中心とした観光開発型の都市整備に加え、地域性の高い生活空間や景観の保全形成に着目し、地域性を生み出している一般的な黄色石造建築物の価値づけに取り組んだところに意義がある。実態調査により約50%は黄色石造建築物であるが、その多くが程度の差はあるが景観要素としての特性を失いつつあることがわかった。こうした建物の調査ガイドラインを示し、地域環境の特性を保全する観点から、特定地域の保全や増改築の管理による建築レベルの保全の考え方を示すことができた。

論文審査の結果の要旨

本研究は、ヨルダン・サルト市において、都市景観を特徴づけている黄色石造の建築物の景観構成要素としての価値に着目し、サルトにおける都市景観の地域性を保全するための計画論を考察提示するものである。

第1章では、サルトの地理的・空間的特性および市街化歴の分析にもとづき歴史的環境を残す地区を特定し、これを調査対象地区と設定している。あわせて道路・歩行者空間ネットワークの特性および地理的・社会的条件による空間的まとまりから調査対象地区の地域性を明らかにし、この特性にもとづきゾーニングを行っている。

第2章では、伝統的な建て方の建築物の変容について実態調査し、その要因を分析している。現在のサルトの歴史的環境は19世紀終わりから20世紀初頭に形成されており、その後のモータリゼーションの進展が経済的に豊かな家の郊外移転を促進した。そうした社会経済的変化のなかで、住宅用途の建物において居住者の生活ニーズの変容に応じた増改築が繰り返されてきた実態を事例ヒアリング調査により明らかにしている。

第3章では、調査対象地域内にある建築物の実態調査を行い、景観を特徴づけている黄色石造(石灰岩の一種)建築物の現状を分析している。調査対象地域内の建築物のうち、50%(422棟)は黄色石造建築物であるが、その73%では景観を特徴づける色や素材感に変更を生じるような改修が見られた。当初の建築様式と用途を維持している建物はダウンタウン地区に集中していること、住宅用途で外観変容の割合が高いことを指摘している。

第4章では、行政機関の取り組みについて文献・ヒアリング調査による分析を行い、建築物の歴史的価値について評価指標を検証し、歴史遺産型の大規模建築物の評価が高いことを確認している。こうした評価にもとづく行政機関の取り組みはランドマークとなる建築物の修復や周辺道路・眺望点の整備による観光振興が意図されており、一般的な黄色砂岩建築物への関心が低いことを指摘している。

第5章では、都市景観の歴史性および地域性の保全には、一般的な黄色石造建築物の保全が重要という観点から、行政機関が提示している建築物の評価指標のうち一般的建築物の歴史的価値の評価にも適用できる指標の検討を行い、開口部の装飾や形態、バルコニーの構造など共通する指標を見出している。

第6章では、黄色石造建築物の特性と変容の実態およびその歴史的価値の評価指標の検討により、一般的な黄色石造建築物の歴史的価値評価のための調査ガイドラインの提案、景観保全のために取り組みを優先すべき建築物の類型および地域を示し、景観構成要素である建築物の特性分析にもとづき地域環境の保全方針を示すに至っている。

本研究では、行政機関の観光開発型の建物保全の取り組みに対し、生活空間や景観に現れている地域環境の特性を保全する観点から、景観を構成している建築物の評価と保全方針を実証的に示したところに意義がある。

以上のように、本論文は、近代化と経済開発が優先される開発途上国などの地域において、観光資源ともなり得る特徴ある地域景観の保全には、市街地の一般的な建築物の変容を計画的に管理する必要があることを実証的に示しており、建築・都市計画ならびに地域計画分野への寄与が大きいと判断される。今後は、建築物群としての景観の評価への取り組みや保全・修復のための地域の実情に応じた具体的なプログラムの開発への展開が期待される。

よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。